

【韓国ソウル市立大学校との交流情報】

2011年9月20日（火）から9月23日（金）まで3泊4日間の日程で、人間文化学部のプロジェクト（「国際交流の継続と異文化コミュニケーション能力向上に関する研究」）の一環として、本学の交流団8人が、ソウル市立大学校を訪問し、教職員・学生たちと交流会を行った。参加した学生の体験記の一部を紹介する。

「ソウル市立大学訪問と学生との交流を通して」

国際文化学科 2年 M. M

今回の学部プロジェクトを通して、さまざまな経験をすることができた。この報告では、今回のプロジェクトの中心の目的であったソウル市立大学との交流について書く。

ソウル市立大学では、まず、韓国語の授業を見学した。私が見学したクラスは、文字を覚えるなど韓国語を学び始めた人を対象とした初級の授業で、すべて韓国語で行われ、受けている学生は日本や欧米、中国などさまざまな国から来ている15人ほどであった。授業を見ていると、さまざまな工夫がされていることを感じた。1つ目は、机の配置をコの字形にし、皆がお互いの顔を見ることができるようになっていることである。2つ目は授業の中にゲームを取り入れていることである。私が見学したクラスでは、マスの書いてある紙に単語を書き入れ、ペアになって互いに1つずつ単語を言っていき、マスに書いた単語を消し縦、横、斜めをそろえるビンゴ形式のゲームや、2チームに分かれてそれぞれ1列になり、小さな声で順番に次の人に単語を伝えていき、最後の人が黒板に書いて回答するといった伝言ゲームなどの要素を取り入れていた。このような工夫がされていることで、学習の内容を記憶に留めやすくなり、楽しみながら、アットホームのような雰囲気の中で学べる工夫が行われている点が大変興味深かった。

交流会では、ソウル市立大学の学生が参加して広島とソウルについての紹介や、互いの大学の紹介を行った。紹介を通して、ソウルはやはり韓国の首都であるということで、多くの人や物が集まっている都市であり、とてもエネルギッシュなパワーがあると感じた。市街地にあるソウル市立大学はソウルの発展に貢献できる人物を育てることを目標として挙げており、政治、経済、人文、自然科学、都市科学、芸術、教育などの多分野にわたる学部をもち、毎年、多くの卒業生が、ソウルにおいてさまざまな分野や場面で活躍していることを知った。

交流会の後、いくつかのグループに分かれて、ソウル市立大学内を実際に歩いて回りながら、学生に案内をしてもらった。さまざまな学部が1つのキャンパス内にあるため、とても広く、学部ごとに分かれて大きな校舎が建てられていた。時間の関係で、すべての建物の中までは見ることはできなかったが、きれいに整備されている大学であった。また大学内にフィットネスセンターがあることにとっても驚いたり、コンビニや学食など、一か所

のみではなく、離れて数か所つくられていたりするなど、とても便利さを感じた。それから面白い施設だと思ったのが「外国語カフェ」である。曜日によってそれぞれ英語、日本語、中国語などの言語のみで話す日が決まっていて、カフェに集まった人同士でその言語で話ができる場所である。さまざまな国から来ている人同士が出合い、交流できる場になっていて、とてもユニークな取り組みである。

大学を案内してくれた4年生と2年生の女子学生2人は、とても気さくで丁寧だった。2人とも日本語を話すことができ、互いに片言ながらも、日本語、韓国語、英語、ジェスチャーなどを交えながら、自分自身のことや、大学について、日本と韓国の最近の流行のこと、その他日韓の文化のことなどさまざまな話をする事ができた。私は以前から、同年代の韓国の学生がどのようなことを考えているか、どのようなことに興味があるのかにとても興味があった。今回は短い間だったので、それほど深くは話をする事ができなかったが、その短い時間の中でも韓国の同年代の学生との話を通して、考えなどを知ることができ、私にとってとても貴重な体験となった。しかし反対に、会話の中で日本について聞かれたときに、正確に答えられないということもあった。相手にとってみれば、私は日本人の代表として映るため、あやふやな回答はできないと思った。自分が生まれ育った日本についてもっと知り、しっかりと説明できるようになればならないということを実感した。

最後に、今回のソウル市立大学を訪問し、学生との交流などを通して、もっと深く韓国や韓国の人々について知っていきたく強く思った。この学部プロジェクトを新たな出発点として、語学力をさらに伸ばし、今回得たさまざまな経験を大学やこれからの生活などで生かしながら、成長できるようにしていきたいと思う。



<写真> 校内の交流会でお互いに現況と情報を紹介している。